

令和4年度 江戸川区立清新第一中学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学び進んで働く生徒 ・心身ともに健康な生徒 ・自他を尊重して協調性を発揮する生徒 ・社会に対する責任を自覚して実践する生徒 	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・「知・徳・体」のバランスのとれた生徒が育つ学校 ・自ら意欲的に学び、個性を伸ばす生徒 ・自身の専門性を高め続ける姿勢をもつ教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> ①全教員が年1回以上、ICT活用による授業実践を行えた。 ②ローテーション授業による道徳授業の充実。 <課題> ①タブレットを活用した授業のスキルアップ ②不登校対策 ③感染症対策を踏まえた教育活動の充実 ④働き方改革		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・7つの主要事業(取組)に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・改善・充実	・年間35回以上の補習の実施 ・定期的な教科部会と連携部会の実施 ・業者による放課後補習教室の実施 ・TGGを活用した基礎力の向上	保護者・生徒のアンケートの肯定的な評価が80%	A	B	・数学を中心に放課後補習の実施している。全国学力調査の結果が向上している。	B	昨年度から引き続きTGGを活用した学習に取り組まれており、生徒の意欲向上につながっている。	業者による補習教科が次年度より英語が増えるのでさらに補修体制を構築する
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実(読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、他教科との横断的な連携等) ・学校図書館の活用の推進、学校図書館を	・昨年の教育課題実践推進校としての実践で得た経験をもとに探究的な学習の充実 ・中学3年生の卒業論文	生徒アンケートの肯定的な評価が90%	A	B	・2年生は、「国際理解」をテーマにディベート授業を行った。各学年読書を通じ自分の考えを深め他者に伝える授業を行っている。 ・学校図書館の活用をさらに推進する。	B	清新第一中学校でしかできない実践を期待します。	学校図書館のさらなる活用と3年間のつながりのある指導計画の見直し
	体力の向上	・体育の授業での補強運動や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・運動会やロードレース大会の取組を通して意欲の向上を図る ・毎時の保健体育の授業での補強運動の充実	生徒アンケートの肯定的な評価が80%	A	B	・運動会を通常通り行った。 ・ロードレース大会を実施し、体力向上に繋げる。	B	積極的に体力づくりを行っている。	全体の取り組み計画の見直し
	健全育成に向けた取組の強化	・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	・教育相談体制の充実 ・「SNS家庭ルール」等の徹底 ・居場所づくりの拡充と公的機関との連携	・生徒アンケート等ではいじめを認知した場合、1ヶ月以内の解決を目指す ・不登校生徒を10%減らす	A	B	・校内委員会を中心にして居場所づくりの拡充を進めている。 ・セーフティ教室等や「えどタブレット」を活用し情報モラル指導を行っている。	B	SNSに関するテーマやセーフティ教室の開催等、生徒にとって身近なテーマは評価できる。	校内委員会やいじめ防止委員会での取り組みの見直し
特別支援教育の充実	共生社会の実現に向けた教育推進	・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・交流及び共同学習の充実	・月1回の校内委員会での情報共有と手立との確認 ・エンカレッジルーム活用の充実と推進	保護者アンケートの肯定的な評価が70%	A	A	・毎月、校内委員会を実施し、情報共有を行うとともに、組織的な取り組みができています。 ・エンカレッジルームを活用し、さらに子どもたちに居場所づくりを推進する。	B	生徒の生き生きとしている様子にしっかりと取組を感じる。	エンカレッジルームの活用の仕方
	子供たちの健全育成	・子供たちの健全育成に向けた取組の強化	・交流する場面の充実 ・講演会の実施	・交流授業・行事・給食年間15回 ・校内研修会 年間3回	A	A	・運動会や修学旅行で交流活動を行った。さらにインクルーシブ教育を推進する。	B	今後も継続的に取り組んでください。	インクルーシブ教育の取り組み計画の推進
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	・生徒・保護者アンケート、教職員アンケート、学校関係者評価の分析、工夫・改善	・学校関係者評価のAが80%	A	B	・アンケートの工夫・改善を行う。	B	評議委員会に出席し常に学校を振り返った取り組みをしていると感じる。	見通しの良い学校運営
	教員研修の充実	・学習用タブレットを活用した授業実施に向けた研修	・授業研修会を学期に1回以上実施 ・ICT機器使用の習得の構築	保護者アンケートの肯定的な評価が80%	A	B	・ICT授業や道徳授業のローテーション授業を進め、研修会を行い授業力を高める。	B	研修会等に参加させていただければ協力できると思う。	全校体制での実施計画の見直し
	タブレット活用のスキルアップ	生徒や保護者との連絡ツールとして積極的な活用	・毎日の健康観察 ・学習アンケート・学校評価	保護者アンケートの肯定的な評価が85%	A	A	・さらに活用できるように研修を行う。	B	多くの場面で活用されていると思う。	ICT研修の充実
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実態	・定時退勤日の徹底 ・正しく打刻する習慣の徹底 ・部活動の方針やガイドラインに沿った活動時間・休養日の設定を推進	1日の在校時間を11時間を目指す	B	B	・定時退勤日についての意識は高まっているが、さらに意識改革が必要である。	C	教員、保護者の一層の意識改革が課題。	仕事の効率化、会議の持ち方の見直し
	連絡ノートの活用	生徒の生活を見守り、相談を受ける体制を整える	毎日、担任が連絡ノートを回収、コメント記入	全クラスで実施(100%)	A	A	・全クラスで実施できている。	B	担任とも連携が取れていると感じる。	負担軽減の見直し
	ボランティア活動の組織的推進	ボランティア活動の組織的推進	・町会の行事のボランティア活動 ・高齢者施設でのボランティア活動	生徒アンケートの肯定的な評価が80%	A	C	・感染症の影響もあり自転車盗0運動のみ参加できた。感染症が落ち着いたら参加していく。	B	コロナ禍により活動ができなかったと思います。	積極的に参加していく